

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドレミ児童リハビリセンター			
○保護者評価実施期間	R7年11月1日 ~ R7年12月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	R7年11月1日 ~ R7年11月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	23
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月13日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われる こと ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性に応じた適切なアセスメントに基づく計画に沿って、保護者との共通理解のもとに共感的な支援を行っている。	丁寧なアセスメント、プログラムの見直しなどを行い、変化に応じた支援を心がけている。	保護者との情報共有を強化することで、個人に合わせた支援内容や日々の取組をより理解していただけ。SNSやLINEで情報を提供するだけでなく、声かけをすることで確実に見ていただけるよう工夫していく。
2	職員研修を充実させている。	法人内事業所合同の年間研修計画、委員会制度により体系化している。毎回、実践的な内容を盛り込み、研修後にふりかえりを行うことで、学んだことを定着させ、日々の支援に生かせるよう工夫している。	こども理解に特化した内容を取り入れることで、従業員全員が質の高いサービスを提供できるよう取り組んでいく。
3	計画書の説明や日々の連絡帳の内容が充実している。	ICT機器導入により、業務効率化を進めた結果、丁寧な説明の時間が確保できた。	今後もさらなる業務効率化を進め、直接対面にあてる時間を増やし、行きたいと思っていただける事業所になれるよう努力していく。

	事業所の弱み（※）だと思われる こと ※事業所の課題や改善が必要だと思われる	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会がない。	利用児童の重度障害や基礎疾患を鑑みて、感染対策を重要視しており、地域の子供との交流の機会が持てていない。	法人が実施している「こども食堂」のチラシを配布することで、地域の家庭との交流のきっかけとなるよう取り組んでいく。多機能事業所（生活介護、就労支援B型、放課後デイ）の強みを生かし、世代や障害を越えた交流を企画していく。
2	取り組んでいる内容について、保護者に周知できていないことが多い。	多忙な保護者が多く、書類を確認する時間を確保することは難しいと予想される。	わからないところがあれば聞きやすい環境を作り、多忙な中でも必要なことを知っていただけるよう、丁寧な声掛けを繰り返し行っていく。
3			